



昭和14年当時の社頭風景

復  
元

## 建国記念日祭挨拶

宮司額田照彦

本日の、皇紀一千六百七十九年建国記念日祭に際しまして、只今ご神前に御皇室の弥栄と、國家の繁榮、世界平和をご祈念申し上げました。ご参列の皆様方・崇敬者の皆様方にまつては、日頃より英靈の慰靈顯彰・神社の護持運営に、格別のご支援ご協力を賜りまして、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、畏くも天皇陛下におさせられましては、昨年御即位三十年の佳節をお迎えにならぬ、また、本年一月七日に御在位三十年をお迎えになり、四月十日には天皇皇后両陛下御成婚六十年をお迎えになられます。常に国民の象徴として、国民とともに、苦樂と共にされ、平成二十八年八月の陛下のお言葉にある「人々の傍らに立ち、思い寄り添う事」を常に大切になされつつ大地震や台風・豪雨などの自然災害の被災者を励まし、被災地の復興を見守り続けられ、戦没者の追悼と慰靈の御神事が斎行されるなどの、御代替わりの諸儀式が

## 御祭神數

当神社に御鎮祭申し上げております  
御祭神は四万九千七百二十八柱です。

予定されており、これらの諸儀式が恙なく厳  
肅盛大裡に斎行されますことを念願し、御皇  
室の弥栄を祈念して已みません。

「皇室がどのようない時に国民と共にあり、  
相たずさえて、この国の未来を築いていける

よう、そして象徴天皇の務めが、常に途切れ

ることなく、安定的に続していくことをひと  
えに念じておられる」という陛下の大御心を

拝して、私たちはその意義を十分に理解する  
ことが大切であります。天皇陛下が常に国の中  
心にあり、国の有り様、国民の有り様に御  
心を碎いてこられたことは歴史上一貫してい  
ます。天皇陛下の長年にわたる、お務めに感  
謝の誠を捧げ、新たな御代が平穏のうちに幕  
を開け、我が国が益々榮えゆくことを祈念申  
し上げます。

周知の通り、第一代・神武天皇から、二千  
六百七十九年におよぶ、我が国の天皇・皇室  
の歴史は、現存する世界の君主国で最長であ  
ります。日本では万世一系の皇統と共に、そ  
の大御心も綿々として、次世代の御代に受け  
継がれてまいりました。その長い年月におけ  
る、皇位継承の内、五十八代が譲位によるも  
ので、全体の半数近くになるという事実があ  
ります。時代が下り、明治の御代となつて、  
皇位や皇室の諸事を規定した、諸法令が整え  
られましたが、譲位の定めはありませんでした。  
従つて、この度の御譲位は、近代の法制  
化以降初めてのことであり、「天皇の退位等  
に関する皇室典範特例法」を制定した上で  
実施となります。このことは、今後の皇位繼

承に関する事柄を考える際に、極めて重要な  
意味を持つ事である事は言うまでもなく、  
さらには我が國柄に大きく係わることから、  
我々国民も重大な関心を持つて、見守るべき  
重要な事と言えるでしょう。

御譲位と御即位が、國事行為として、國民  
挙つて祝福のもとに恙なく執り行われますよ  
うお祈り申し上げます。

平成の御代から新しい御代へと時代は移り  
替つて参りますが、当神社と致しましては、  
今後も変わらず新しい時代へ向かって、未來  
永劫職員一丸となつて、英靈の慰靈顯彰に努  
めて参りますので、御遺族の皆様を始め、関  
係各位の皆様方におかれましても、今後も変  
わらず神社の護持運営に引き続きご理解ご協  
力賜りますようお願い申し上げます。結びに  
本日、ご参列の皆様方の、御健勝、御多幸を  
衷心よりお祈り申し上げ、御挨拶とさせて頂  
きます。

当時の吳には朝鮮半島出身者が多く、父達  
と一緒に働いていたので、私が入学した本通  
国民学校では半島の子供達と共に、机を並べ  
て勉強していた。彼等も私達と同じ様に、食  
べるために仕事のある日本へ、働きに来るし  
かなかつたのだと思っている。

さて、昭和十九年四月九日に、本籍地であ  
る温泉郡久米村の村長から、父に「召集令  
状」を送るとの電報が届いた。

その電文には「動員アリ四月一八日八時、  
高知市西部三四部隊へ行ケ、令状スグ送ル。  
行ケルカ返マツ。久米村長」とあり、続いて  
村長からの「書留速達」で召集令状が届いた。

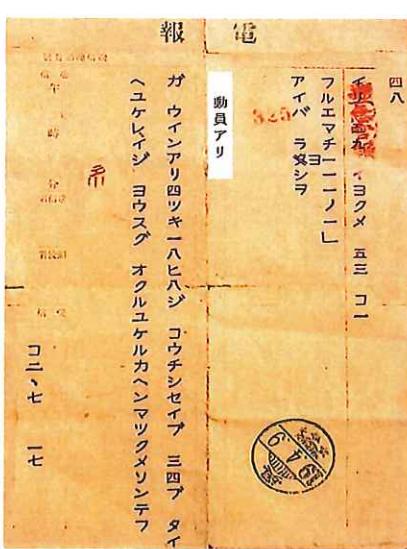
陣織を手伝っていたが、戦争の激化とともに  
減産等に追い込まれ、職人として働くのが難  
しくなつて、職を求めて広島、更に吳へと移  
り住み、吳海軍工廠で母と共に働くことに  
なつた。

## 召集令状と平和への思い

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原 章

二十歳になつた父が、徵兵検査を受けたのは  
昭和六年だった。その結果は、久米村の歩  
兵補充兵（第二乙歩兵第九十一番）であった。  
それで母と結婚し、京都の伏見で親戚の西





徴兵検査を受けて十三年目に、第二乙九十番に赤紙が来たのである。父は急ぎ郷里に帰つて村長に令状を受領した旨告げ、十八日に高知市で、歩兵第一四四連隊補充隊に応召し、第三機関銃中隊に編入されたのだが、二十二日に母へ、面会間に合わなんだと「検閲済」の押印がある、はがきを出して音信不通となり、その後どうなつたか分からぬまま、終戦の詔勅を聞くことになった。

村長に「行け」と言われたのだが、この言葉は非常に重いと思う。

遺族はこうした悲しい歴史を忘ることなく、戦没者を悼み平和を誓つただが、最近の朝鮮半島との関係は、非常に危うい。

私が考える平和とは、戦争をしないで勝つことだが、そのためには「はやぶさ2」の様に、日本人の優秀な頭脳と技術力を發揮しその底力を世界に示して勝つことにある。

JAXAの「小惑星探査機」が、大きな抑止力になることを期待し、任務を終え無事に帰還することを祈つている。

今年は昭和で数えれば九十四年、先の大戦の終戦後、七十四年になります。明治から数えれば百五十年になります。平均寿命も大きく伸びました。日々の生活環境も大きく豊かになりました。所得も大きなものになりました。医療、福祉制度も充実して参りました。

先進諸国の経済成長は、もうそろそろ、安定成長に移行すべきではないでしょうか。安

## 新元号のもと

愛媛県遺族会

会長 関 谷 勝 嗣



五月一日より新しい元号のもと、日本の、なお一層の発展が図られます。新しい元号になつたからといって、世の中の色々な事柄が変わることではあります。日本人の心の中で、新しい元号のもと、新しい気持ちで頑張りましょうということでしょう。

今年から、奇しくも数年に亘り日本で国際行事が行われます。G20首脳会議、ラグビーワールドカップ、二〇二〇オリンピック・パラリンピック東京大会、二〇二五大阪国際博覧会等々。この機会に、日本に世界の目が注がれ、益々日本の国際化が進捗することを望みたいものです。

然破壊や環境汚染を引き起こしました。温暖化が起きました。太平洋の地面の低い島嶼国は温暖化のために海水が上昇して水浸となり、住めない状態になっています。

日本の財政は一千兆円の赤字です。国民総生産が約九百兆円ですから一年分以上の借金を抱えています。何時、経済破綻が起きてもおかしくない状態にあります。

もう、この時点で足元を見詰め直し、後ろを振り返り、自然環境をはじめとして我々の豊かさを得るために利用をさせて戴く、全てのものとの再生可能な範疇での利用に止めなくてはなりません。

鉄砲や蒸気機関車や自動車などから始まつた機械文明社会も、今やコンピューターやスマートフォン等、先端技術の領域まで到達しましたように思われます。

これ以上の進捗は、負の遺産の方が大きくなるでしょう。

今後の課題は、今までに得た豊かさを、どのように分配するか、格差是正です。ただ、ここで一つ基本問題として考えておかなければならぬことは、富を得るために、必死の努力をした上で得た富であって、一切努力もしない結果の貧しい人々に分配するといったことはありません。地政学上、やむなく貧しい状況におとしめられた方々に、どう対処するかです。

無限の成長など、あり得ないのですから。

平成三十一年度

## 第六十五回 新穀献納慰靈祭

平成三十一年度（第六十五回）新穀献納慰靈祭は一月十一日（金）午前十一時より、県護國神社で厳かに執り行われた。

県鄉友会永井会長が祭主となり斎行された。

当日は穏やかな冬晴れの中、ご来賓を始め県下から単位会長、役員等五十数名が参列した。

県下会員、県民のご協力により拠出されたお初穀料・新穀を奉納し、英靈を御慰めした。

今年度は前年度を上回る集荷を達成することができ、御協力戴いた県民の皆様及び献納に御尽力戴いた会員に感謝申し上げます。

### 祭文

本日、愛媛県護國神社の大前において、ご来賓及び郷友会会員多数ご参列のもと第六十五回新穀献納慰靈祭が、厳かに執り行われるにあたり郷友会を代表して謹んで祭文を奏上いたします。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英靈の皆様方に収穫された新米を献じることから日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英靈の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰靈

顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得ながら続けて参りましたが、今では定着されています。

今後も永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる

伝統行事として継続実施する決意を新にしております。

しかし戦後七十三年も過ぎ、会員の高齢化による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知らない世代七十才以下の国民が八割以上を占めている今日、日本の将来を懸念しておりますが、軍歴がなくとも誰でもが入会できる郷友会であり日本郷友連盟の理念でもあります。

自分の国は自分で守るという国防意識の高揚、英靈・殉職自衛官の慰靈顕彰、栄光ある歴史及び伝統文化を継承するという、日本郷友連盟の理念でもある、三点の具現実行を通じて組織の強い活性化の維持に努めながら、先輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続しなければならないと痛感致しております。

今後におきましても私どもは御祭神四万九千七百二十八柱の方々のご加護を戴きながらこの事業を続け、百四十万県民のやさしさとパワーを結集し豊かで住みやすい郷土造りに専念努力する所存であります。

また自衛隊に關しては、最近の近隣諸国活動は予断許しがたき不穏な行動が多く憂慮される中、益々のご奮闘を期待すると共に、その活動に対し限りなく最大限の支援を続けて参ります。

か、御遺族の皆様をはじめ県民全てにご加護を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈念し祭文と致します。

平成三十一年一月十一日

愛媛県郷友会

会長 永井之保

### 『戦友団体等による慰靈祭』

平成三十一年

十月十四日 愛媛県隊友会

十月二十七日 戦没者戦争裁判殉国者

平成三十一年

三月四日 南予ニューギニア会

### 『遺族会等による慰靈祭』

平成三十一年

十一月十六日 愛南町御莊

十一月十六日 今治市伯方

十一月二十日 愛南町西海

十一月二十四日 愛南町一本松

十二月四日 愛南町城辺

平成三十一年

三月八日 今治市上浦町

三月十六日 西条市小松

三月十六日 西条市宇和

三月十六日 西予市城川

三月二十六日 西予市三瓶

四月三日 西条市丹原町中川





m根回り三m、目通り直徑一mと見事な樹で、幾つもの立派な乳房が垂れ下がっている。平成の初め頃から有志が謀らつて「万葉苑・御幸乳出のイチヨウ」と命名し毎年注連縄を飾りつけてきた。

さて、万葉集に詠まれている「ちち」は「イチヨウ」と「いぬびわ」の二説がある。「イチヨウ」は「いちょう科」の落葉高木、雌雄異株。「銀杏」は食用や生薬に重用されている。中世代のジュラ紀に広く繁殖した植物で、現存するもつとも古い植物の一つ。「生きている化石」とも呼ばれている。

万葉集で「ちち（知智・知知）」を詠んだ歌は二首。何れも長歌である。一首は、「男子の名を振はむことを慕う」  
「知智の実の父の命 桧葉の母の命 凡ろかに情尽くして思ふらむ その子なれやも ますらをや空しくあるべき梓弓末振りおこし投

矢持ち千尋射わたし 剣太刀腰に取り佩きあしひきの八峰を踏み越えさしまくる心障らず後の世の語り継ぐべし名を立つべしも…」  
大伴家持（巻一九〇四一六四）意味は

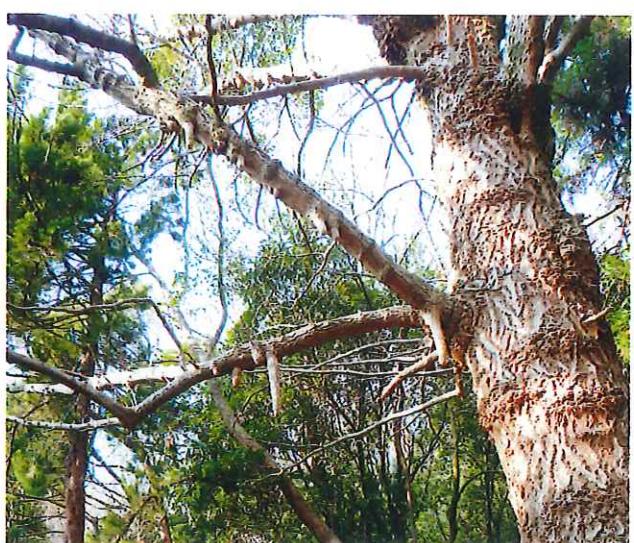
「お前は父母が生半可に心を掛けているような、そんな子ではない。父母が心から大事に思つてゐる子なのだ。その男子たるもののが無為に生きるべきではない。梓弓の弓末を振り立て投ぐ矢で遠くまでも射、剣の太刀を腰に佩び、山々を越えて君の仰せのままに働き、いかなる困難も乗り越えて、後の世の人々にまで語り継がれるような勇士になれよ」と、親の願いを詠んだものである。家持は武門の名家の嫡流として功名心を強く持つていた。

「防人が悲別の情を陳ぶる歌」

「大君の任せのまにまに島守に 我が立ち来れ 桧葉の母の命はみ裳の裾 摘み上げ搔き撫で 知智の実の父の命はたくづのの 白鬚の上ゆ涙垂り…」（後略）大伴家持（巻二〇〇四〇八）その意味は「天皇の仰せのままに、防人（兵士）として出立つとき、母君は裳の裾を摘み上げて私を撫で、父君は白い鬚の上に涙を流して…」

大伴家持は、越中國守から少納言となつて、天平勝宝三年は帰京、その後兵部少輔、さらに兵部大輔となるが、この歌は天平勝宝七年、東国から徵されて筑紫に向かう防人に心を寄せ、防人の身を思つての七十七句に及ぶ長歌で、出征する兵士と家族の心情が切々と詠まれている。実は万葉集には防人の歌が

九十八首收められている。これらの防人はにぎたつ出港の後、白村江の戦に敗れた我が国が、朝鮮半島からの脅威に備えて九州北部の防衛を固めた時に兵士として召集されたのが東国の若者であつた。海山を越え何時故郷に戻れるか分からぬ出征の防人と、その帰りを待つ家族との愛や悲しみが痛いほど伝わつてくる。父母や妻・恋人を想う歌が六四%、望郷の歌七%、子を想う歌は僅かに二・二%である。これは防人がまだ妻子の無い若者が多かつた故である。それでも「韓衣裾に取りつき泣く子らを 置きてぞ來ぬや母なしにして」その意味は、



(韓衣『防人に支給された制服、いわば軍服』にすがり泣く母の無い子を残して九州に征く)二度と会えないかも知れない。母無き子供たちを案じる父親の切実な想いを詠んだ歌もある。従軍中万葉集を持っていた私の体験や、同じような戦友達のことが思い出される。まさに一三〇〇年余りを隔てて「日本人の心情」が脈々と伝わっていたのである。

<p>☆平成三十一年一月一日 新春居合道奉納 折戸善彦様 一名</p>
<p>☆平成三十一年一月一日 新春慶祝揮毫 書家林龍峯様 計六名</p>
<p>☆平成三十一年一月八日 四季オーナーズ会 会長林龍峯様 計四十名</p>
<p>☆平成三十一年一月八日 松山市遺族会役員会 会長柳原永祥様 計六名</p>

<p>☆平成三十一年三月十一日 愛媛県遺族会四国中央支部 支部長石川秀光様 計七十名</p>
<p>☆平成三十一年三月二十六日 愛媛県遺族会連盟 理事長須々木壽志様 計五十名</p>
<p>☆平成三十一年三月二十五日 岡山県遺族会連盟 理事長須々木壽志様 計五十名</p>
<p>☆平成三十一年三月二十八日 愛媛県遺族会理事会 会長関谷勝嗣様 計三十名</p>
<p>☆平成三十一年一月一日 愛媛県隊友会 会長瀬川紘一郎様 計三十名</p>
<p>☆平成三十一年一月一日 後継者慰靈巡回参加者女性部 英靈研修会 会長関谷勝嗣様 計二百名</p>
<p>☆平成三十一年一月八日 久万遺族会 会長坂口鶴男様 計二十六名</p>
<p>☆平成三十一年十一月八日 平成三十年十一月八日 愛媛県遺族会理事会 会長閑谷勝嗣様 計八名</p>
<p>☆平成三十一年十二月三日 松山市遺族会研修会 会長乗松悟様 計四十名</p>
<p>☆平成三十一年十二月九日 ボーアスカウト松山第十六団 团委員長小島伸治様 計十七名</p>
<p>☆平成三十一年一月一日 歳旦尺八献奏 都山流尺八中予幹部会 会長西田仙秋山様 計八名</p>

## 愛媛縣護國神社英靈顯彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國神社英靈顯彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。

### 英靈顯彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神札	御守	紙札	木札(小)	年1回発送
社報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顯彰石彫	×	×	○	

御祈禱(お祓い)の  
御案内

わせ下さい。  
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。

当社では各種祈願を隨時お受けしております。

初宮 三五除厄 通内格運 安安祈福昌願全全け詣詣  
その他の新年特別祈